

(2) 西部地域 ～ 地域がはぐくんだ歴史ある農業用水路の継承と農地整備の促進 ～

「水」の保全整備

- 農業用水の安定供給を図るため、農業水利施設の計画的な保全と適切な維持管理体制の確立を支援し、後世へ歴史的な農業用水を継承する。
- 土地改良区による適正な水管理や継続的な安定運営を支援し、農業水利施設の保管理体制を構築する。

【当該年度評価の総括】

1 農業水利施設の計画的な保全

- 歴史的な農業水利施設を保全するため、小幡地区において景観に配慮した整備を行った。

2 土地改良区の体制強化

- 土地改良区体制強化基本計画に基づく土地改良区の体制強化について、日常業務や5土地改良区へ訪問し、課題等に対する共通認識を図るとともに、体制強化の方策等について意見交換を行った。

◆ 農業水利施設の計画的な保全

・ストックマネジメントによる保全対策の推進

取組内容	計 画	実 績	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策の推進 ----- 4地区を実施 ※ 上落合、藤岡中央、人見堰、神流川用水 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 機能保全計画に基づく、基幹農業水利施設の保全対策の推進 ----- 未実施 ※ 上落合、藤岡中央、人見堰、神流川用水 	D
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・保全対策の事業化に向け、関係機関との調整を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・地元調整の遅れや水利権に関わる他部門協議ができなかったことにより、目標としていた地区数に着手できなかった。 ・各施設管理者からの情報、聞き取りに基づき、施設に関連する他事業との調整、進捗状況を確認し、対策時期の検討を行った。 ・引き続き保全対策の事業化に向けた関係機関との調整を進める。		

・歴史的農業水利施設の継承

取組内容	計 画	実 績	評価
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 景観に配慮した用水施設整備 ----- 1地区を実施 ※ 小幡 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 景観に配慮した用水施設整備 ----- 1地区を実施 ※ 小幡 	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・洗い場や石積水路 L=145m の景観に配慮した工法により整備を進めた。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き、景観に配慮した工法により整備を進めていく。		

・業務継続計画（BCP）策定の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ BCP 策定を支援 ----- 1 土地改良区を支援 ※ 甘楽多野用水	▶ BCP 策定を支援 ----- 1 土地改良区を支援 ※ 甘楽多野用水	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・業務継続計画の策定に向けた意見交換など行い、1 土地改良区が策定した。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・策定後の計画の見直しなど引き続き指導・支援を行う。		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
基幹農業水利施設の保全対策に着手した地区数 [地区]						
目 標	—	—	2	2	5	6
実 績	—	2	2	2	2	2
保全対策により農業用水の安定供給が維持された農地面積 [ha]						
目 標	—	—	542	554	645	1,121
実 績	—	—	306	392	599	599
業務継続計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]						
目 標	—	—	—	→	→	3
実 績	—	—	—	—	2	3

※ 数値は、累計値。

◆ 土地改良区の体制強化

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 土地改良区体制強化の促進 ----- 15 土地改良区の支援 ※ 管内 15 土地改良区	▶ 土地改良区体制強化の促進 ----- 15 土地改良区の支援 ※ 管内 15 土地改良区	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・日常業務や 5 土地改良区への訪問により、管内土地改良区の課題把握、意見交換を行った。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き日常業務や改良区訪問等で課題把握に努め、体制強化に係る支援や必要により計画の見直しを行う。		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R 元) (目標年)
土地改良区体制強化基本計画を策定した土地改良区数 [土地改良区]						
目 標	—	—	5	5	—	15
実 績	—	—	10	5	—	15

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

「土」の保全整備

- ▶ 安定した農業経営を支援するため、平坦地における水田整備と中山間地域の畑地整備を進め、担い手への農地集積を促進する。
- ▶ 碓氷川流域における農地の土壌汚染対策を進める。

【当該年度評価の総括】

1 基盤整備の推進と担い手の育成

- ▶ 基盤整備の推進及び実施において、限られた予算の中で地権者の要望に応えられるよう検討を行い整備に取り組んだほか、団体営事業や土壌汚染対策の推進を支援した。

2 農地中間管理事業等を活用した農地集積の促進

- ▶ 関係機関と連携し、機会を捉えて事業制度の周知を図るとともに、松義西部地区は、農地中間管理事業を活用して、1.75haの農地集積を支援した。

3 野生鳥獣被害防止対策の推進及び支援

- ▶ 小規模農村整備事業などの補助事業の活用を推進し、侵入防止柵の設置を進め農作物の被害軽減のための対策を支援した。

◆ 基盤整備の推進

・ 基盤整備の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 4地区を実施 ※ 松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除 ----- 1地区を支援 ※ 宇田・一ノ宮	▶ 農業生産性の向上と担い手への農地集積を促進するための基盤整備 ----- 4地区を実施 ※ 松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除 ----- 1地区を支援 ※ 宇田・一ノ宮	C
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・各地区で委託業務や工事の発注を行い、A=12.0haの事業進捗を図った。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・過年度からの予算不足及び新規地区における地元調整が遅れたため、目標としていた整備面積に達しなかった。 ・整備遅延地区は、整備量の進捗を図るため、執行見直しや発注に必要な調整を進める。		

・ 土壌汚染対策の推進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 対策に向けた調査 ----- 1地区を実施 ※ 碓氷川流域	▶ 対策に向けた調査 ----- 1地区を実施 ※ 碓氷川流域	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・対策処方に基づく土地改良事業計画を定めるため、関係機関と連携し地元調整等を進めた。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き、碓氷川流域地区の排客土計画を安中市や技術支援課などの関係機関と連携し、調整を進めるとともに、対策処方に基づく、土地改良事業計画を早期に定める。		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
区画整理による整備面積(水田・畑)[ha]【4年間】						
目標	—	—	17.4	60.1	88.8	105.0
実績	—	—	17.1	40.0	70.9	82.9

※ 数値は、累計値。

◆ 農地中間管理事業等を活用した農地集積の促進

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 農地中間管理事業を活用した農地集積の促進 ----- 5地区で推進 ※ 松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、保美	▶ 農地中間管理事業を活用した農地集積の促進 ----- 5地区で推進 ※ 松義西部、下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、保美	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・会議等において、農地中間管理事業の制度周知及び農地の集積を支援した。		
現状分析課題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き農地中間管理事業を活用した農地集積の促進を図る。		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
農地中間管理事業と連携した区画整理の地区数[地区]						
目標	—	—	5	5	→	全計画・実施地区
実績	—	—	5	6	5	5

※ 数値は、累計値。

◆ 野生鳥獣被害防止対策の推進及び支援

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 6市町村を支援 ※ 高崎市、富岡市、安中市、下仁田町、南牧村、甘楽町	▶ 侵入防止柵等の設置 ----- 4市町村を支援 ※ 富岡市、安中市、南牧村、甘楽町	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・4団体に対する侵入防止柵の設置を支援した。		
現状分析課題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き野生鳥獣被害の状況把握を行い、野生鳥獣被害防止対策の推進を図る。		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
野生鳥獣被害防止対策を支援した市町村数[市町村]						
目標	—	—	3	4	5	6
実績	(6)	—	3	7	5	8

※ 基準年の()内は、過去4年間(H25～27)の実績であり、4年間で同数の実施・支援を目指した。
 数値は、単年度取組数。なお、最終年度は市町村(年度の重複を除く)の累計値。

「里」の保全整備

- 高齢化や人口減少などにより離農の進んでいる中山間地域の集落機能や農地の維持を図る。
- 老朽ため池の保全や地すべり防止区域における対策を講じ、危機管理対策を進めることで、農業の安定経営と地域の保全を図る。
- 生態系や環境に配慮し、豊かな自然環境の保全を図る。

【当該年度評価の総括】

1 中山間地域の維持

- 中山間地域の活性化を図るため、南牧村において策定した基盤整備構想を活用し、給水施設工事をを行った。

2 安心安全な地域づくり

- 高崎市及び藤岡市内のため池において、耐震化対策等の事業推進を行った。
- 地すべり防止区域において、地域住民などとの協働により施設の監視を行った。

3 生態系や自然環境への配慮

- 絶滅危惧種や天然記念物として指定されている希少な動植物を保護するため、関係機関と調整を図り、生態系や自然環境に配慮した追跡調査等を実施した。

◆ 安心安全な地域づくり

	計 画	実 績	評価
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 老朽化及び耐震対策の推進 ----- 5地区を支援 ※ 穂積ため池、大谷・牛秣、齊渡ため池、法京ため池、万松寺貯水池 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 老朽化及び耐震対策の推進 ----- 3地区を支援 ※ 穂積ため池、大谷・牛秣 	B
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) <ul style="list-style-type: none"> ・堤体の老朽化対策及び耐震対策工事の発注を行った。 ・防災重点ため池の見直しに合わせ、次年度の調査実施の手続きを支援した。 		
現状分析課題今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) <ul style="list-style-type: none"> ・工事実施ため池は、執行計画に基づき対策を進めると共に早期効果発現を図る。 		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
耐震性能を確認したため池数 [地区]						
目 標	—	—	22	23	24	25
実 績	18	20	22	22	22	22
ハザードマップの作成を支援したため池数 [ヶ所]						
目 標	—	—	15	16	17	18
実 績	13	13	15	15	20	21

※ 数値は、累計値。

◆ 地すべり防止対策

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 協働による地すべり防止区域の監視 ----- 8地区で実施 ※ 白井、中郷、戸野、中野、高立、栃久保、河振、八木沢	▶ 協働による地すべり防止区域の監視 ----- 8地区で実施 ※ 白井、中郷、戸野、中野、高立、栃久保、河振、八木沢	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・地元住民及び関係市町村との協働による施設点検などの管理体制を整備した。 ・白井地区、中野地区及び八木沢地区の地すべり防止施設の機能保全計画を策定した。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・河振地区で令和元年台風第19号豪雨により末端の地すべりが発生したことから、防止区域全体の地すべりの兆候を調査し、必要な地すべり防止対策計画を策定する。		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
地すべり防止施設の機能保全計画の策定地区数 [地区]						
目 標	—	—	—	1	→	5
実 績	—	—	—	1	4	8

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

◆ 生態系や自然環境への配慮

	計 画	実 績	評価
取組内容	▶ 生態系等に配慮した整備及び調査 ----- 4地区を実施 ※ 下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、宇田・一ノ宮	▶ 生態系等に配慮した整備及び調査 ----- 4地区を実施 ※ 下戸塚、笹川沿岸、牛田川除、宇田・一ノ宮	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・宇田・一ノ宮地区において、水生動物に配慮した水路整備を行った。 ・生態系等に配慮した水路などの対策結果を調査した。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き、整備後の水路等において、地域住民等と連携を図りながら、生態系保全に係る検討を進めると伴に対策結果を調査する。		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
生態系に配慮した整備ヶ所数 [ヶ所]						
目 標	—	—	2	2	2	4
実 績	—	—	1	2	2	4

※ 数値は、単年度取組数。最終年度のみ累計値。

「協働」

- 農業生産活動により維持されてきた多面的機能の保全を図る。
- 地域の自主的な活動を支援し、農村地域の活性化を図る。

【当該年度評価の総括】

1 多面的機能支払交付金等を活用した地域活動の支援

- 多面的機能支払交付金の推進を行い、新たに2組織(内広域化1組織)での取り組みに繋げることができた。

◆ 多面的機能支払交付金等を活用した地域活動の支援

・ 多面的機能支払交付金等の推進

取組内容	計 画	実 績	評価
	➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 2,709 ha を支援	➤ 地域資源の維持・保全が図られた農地 ----- 2,637 ha を支援	B
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・ 1地区の新規立ち上げ、1地区の広域組織化を支援した。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き、関係市町村の取り組みなどを支援するとともに、土地改良区の役員会などで事業制度の周知を図り、新たな取り組みを促す。		

◆ 地域の実情に即した将来像の検討

取組内容	計 画	実 績	評価
	➤ モデル地区における構想づくり支援 ----- 1地区を支援	➤ モデル地区における構想づくり支援 ----- 1地区を支援	A
これまでの取組内容	(今年度の取組内容) ・モデル地区である碓氷川右岸農地維持協議会へのアンケート調査の実施、意見交換を行い、将来の 地域資源の保全管理構想を策定した。		
現状分析 課 題 今後の予定	(現状分析・課題・今後の予定) ・引き続き、多面的機能支払交付金の活動を通じて支援を行う。		

数値目標

目標名	H26 (基準年)	H27	H28	H29	H30	H31(R元) (目標年)
多面的機能の維持・発揮が図られた農業集落数 [集落]						
目 標	—	—	71	115(73)	113(75)	152(76)
実 績	56	68	115	113	152	166
農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積 [ha]						
目 標	—	—	2,035	2,363	2,370	2,709
実 績	1,701	1,873	2,363	2,281	2,668	2,637
地域構想づくり支援実施モデル地区数 [地区]						
目 標	—	—	—	→	→	1
実 績	—	—	—	—	—	1

※ 数値は、累計値。

※ 実績値が H31(R元)目標値を超えた場合、次年度の目標値に前年度の実績値を標記し、当初目標値を括弧で標記。